

★ まちのわだい ★

郷土の星 秋山監督応援ツアーに148人！

8月20日、氷川町PR事業（特産品販売戦略）のイベント企画として、町民栄誉賞第1号 秋山幸二福岡ソフトバンクホークス監督の応援ツアーを行い、町内外から総勢148人の参加がありました。

参加者からは、「初めて野球観戦をしました。」「毎年ドームに見に来ていて、一般ツアーで知人もなく寂しかったけど、今日は町一丸となって来ているので楽しい。」などの意見があり、中にはユニホームを着て気分十分な方もいらっしゃいました。

福岡ヤフドームで行われた試合では、ソフトバンクが杉内俊哉投手、東北楽天が田中将大投手という日本を代表する投手の投げ合いで緊迫した試合展開となり、8回表に2点を先行されたソフトバンク打線が9回裏に反撃し、大きな盛り上がりを見せましたが、1対2と惜しくも負けてしまいました。

試合終了後には、観客32,000人余りから一人だけ選考される「キッズヒーロー」に今田優弥くん（宮原小4年：新村）が選ばれ、グラウンドでお母さん、お兄さん、球団マスコット ハリーホークと一緒に記念撮影を行い、川崎宗則選手のサイン入りハリーホーク人形がプレゼントされるなど貴重な体験をされました。

今回のツアーでは、秋山監督よりサイン色紙、サインボール、キャップを計80点いただき、参加者全員で抽選会を行いました。サインボールを大事に持っている小学生、ハズレの方にサイン色紙を譲られる方など微笑ましい光景が見られました。

※秋山監督には、氷川町特産品PRポスターのモデルとしても協力いただいております。



▲氷川町特産品PRポスター



▲地元出身 秋山監督の応援に熱が入りました

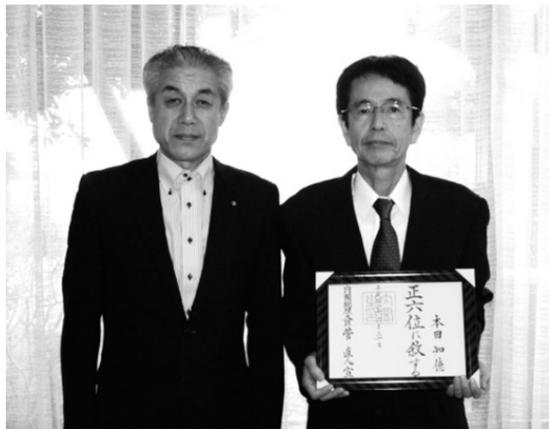
元宮原町長 故 本田知徳さんに正六位

平成23年6月30日に満91歳で亡くなられた元宮原町長の本田知徳さんへの特旨叙位（正六位）伝達式が9月2日、氷川町役場にて行われ、藤本町長よりご遺族の本田和人さんへ位記が手渡されました。

本田さんは、昭和43年から2期6年にわたり町議会議員を務められ、その後昭和50年から3期12年にわたり町長として、町の発展に多大な貢献をされました。

その功績が認められ、平成3年秋の叙勲において勲五等瑞宝章を受章、さらに今回の受章となりました。

位記を受け取った和人さんは「この度は、このような名誉ある章をいただきありがとうございます。父の墓前に報告をしたいと思っております。」と述べられました。



▲位記を手喜びを語る本田和人さん（右）

★ まちのわだい ★

紙ひもで風りん作り

8月19日、まちづくり酒屋において、薄田俊子さん（新村南）を講師に紙ひもで風りん作りを開催しました。

まちづくり酒屋では、定期的な展示会を行っていますが、今年は、一般の方にも体験してもらおうと企画したもので、初めての講座となりました。参加した8人の皆さんからは「来てよかった。」「いい作品が出来上がり帰るのが楽しみ。」などの嬉しい声を聞くことができました。

また、広報ひかわ10月号のイベントコーナー（P24）に、次回の展示会と体験講座のお知らせを掲載しております。皆さまのご参加をお待ち致しております。



▲楽しい時間を過ごしました

県大会で準優勝 九州大会へ

8月1日、第40回九州中学校ハンドボール競技大会（8月4日～6日開催）に氷川中・東陽中合同チームとして出場された山本はるかさん（氷川中3年：川上）の壮行会が、町長室で行われました。

山本さんは、7月23・24日に行われた県大会で、準優勝を果たし、今回の出場となりました。



▲意気込みを語る山本さん

氷川町青年団です

氷川町青年団のPR活動として、8月23～24日、地蔵まつり造り物大会に団員で作製した、竹灯籠を出品しました。

氷川町の象徴の一つでもある立神峡と、青年団活動の一環でもある環境美化をイメージした作品に仕上げました。作品には、ろうそくを使用するため、夜のまつりの時には、団員が交互で警備しました。

審査結果は特別賞でしたが、多くの方に作品や青年団パンフレットを見ていただき、青年団をアピールすることができました。



▲氷川を守ろう！立神峡灯籠！

【団員募集中!】
氷川町青年団では、随時団員を募集しています！詳細は、お問い合わせください。
問【団長】山本 崇 ☎52-3250 【事務局】文化センター青年団室 ☎52-5860（生涯学習課内）

学校教育に新聞を活用

8月31日、氷川町公民館において、氷川町教育委員会と熊日新聞社との間でNIE（Newspaper In Education「教育に新聞を」）に関する協定の調印式が、廣瀬教育長をはじめ、町内5つの小中学校長や関係者出席のもと行われました。

NIEとは、新聞を教材にして学習することで、児童・生徒の言語活動充実を目指します。

今後は、読むことへの言語活動に新聞を活用し、書き手の感性に触れる機会としての授業が期待されます。



▲大津町に次いで県内2例目